

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地									
横浜リゾート&スポーツ専門 学校		平成15年10月28日		大石 進		〒 221-0822 (住所) 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-19-2 (電話) 045-439-7795									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地									
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		鳥居 敏		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度					
文化・教養		文化・教養専門課程		スポーツ&アクティビティ科		平成17(2005)年度				平成28(2016)年度					
学科の目的		「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、スポーツ業界に従事しようとする者に必要な実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによつて、明日のスポーツ業界を担う人材を養成することを目的とする。													
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		本校は、学校教育法に基づきスポーツインストラクター等として、健康スポーツ及びリゾートビジネスに従事しようとする者に必要な知識、技術を教授し、明日の健康産業、リゾート・レジャー産業を担う人材を育成することを目的とする。□													
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技	
2年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間		単位時間		単位時間		単位時間		単位時間	
				62 単位		82 単位		50 単位		19 単位		0 単位		44 単位	
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率							
160 人		100 人		0 人		0 %		0 %							
就職等の状況		■卒業者数(C) : 52 人													
		■就職希望者数(D) : 49 人													
		■就職者数(E) : 44 人													
		■地元就職者数(F) : 6 人													
		■就職率(E/D) : 90 %													
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 14 %													
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 85 %													
		■進学者数 : 3 人													
		■その他													
		就職未決定者2名(現在も就職活動中)													
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載													
		無													
当該学科の ホームページ URL		https://www.sanko.ac.jp/yokohama-sports/													
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに 記入)		(A：単位時間による算定)													
		総授業時数 : 0 単位時間													
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 : 0 単位時間													
		うち企業等と連携した演習の授業時数 : 0 単位時間													
		うち必修授業時数 : 0 単位時間													
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 : 0 単位時間													
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 : 0 単位時間													
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) : 0 単位時間													
		(B：単位数による算定)													
		総単位数 : 62 単位													
教員の属性(専任 教員について記 入)		うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 : 0 単位													
		うち企業等と連携した演習の単位数 : 4 単位													
		うち必修単位数 : 12 単位													
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 : 0 単位													
		うち企業等と連携した必修の演習の単位数 : 4 単位													
		(うち企業等と連携したインターンシップの単位数) : 0 単位													
		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) : 28 人													
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) : 21 人													
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) : 3 人													
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) : 8 人													
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) : 1 人															
計 : 61 人															
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 : 5 人													

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、リゾート分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、リゾート分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
清水 忍	株式会社INSTRUCTIONS 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日 (2年)	③
清水 紘二郎	シンプルボディーナビゲーター合同会社 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日 (2年)	①
松本 悠	横浜リゾート&スポーツ専門学校 副校長		-
三澤 麻衣	横浜リゾート&スポーツ専門学校 教務課長		-
澤田 友紀	横浜リゾート&スポーツ専門学校 分野専門主任		-
紙谷 佳代	横浜リゾート&スポーツ専門学校 教務主任		-
佐藤 綾佳	横浜リゾート&スポーツ専門学校 教務主任		-
今村 鈴音	横浜リゾート&スポーツ専門学校 教務主任		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年2月6日 17:30～19:00

第2回 令和7年7月3日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 共通議題として、①フィットネスインストラクターのキャリア像について ②NESTA JAPAN監修シラバスについて 意見を頂いた。 ①フィットネスインストラクターのキャリア像については下記の意見を頂いている。 ・クラブ＝フィットネスクラブという固定概念を取っ払う必要がある。 ・フィットネスクラブで働くのであれば有料レッスンでお客様を獲得できるか、映像レッスンに出られるか等が今後の働き生き抜く軸の一つになってくるといえる。 ・ダンススタジオ経営者としては、ダンスの指導者は現場でもニーズは伸びているため、専門学校でもニーズに合うコースがあるのであれば、うまく打ち出しできれば希望する層は一定数いるだろう。 ・フィットネスインストラクターというカテゴリーの将来性は低く、似た形態が残っており混同されてる。 ・フィットネスインストラクターという業務が集団プログラムを指導するという職業だと割り切れれば良い。その背景として、ZUNBAインストラクターや、クロスフィットネスインストラクターという仕事は伸びているのが現実である。 ・貴校で新設している、ダンスパフォーマンスコースは、経費捻出含め集客を増やせる可能性は大いにあるだろう。 ②NESTA JAPAN監修シラバスについて 《カリキュラム改定の背景》 インストラクター理論と実践という科目は、実技を中心にその中で機能解剖学・生理学などの座学も交えて運用している。 ・カリキュラムは難しすぎるよりも、浅い知識で良いから体系的に理解ができるレベルでの学びに繋げていった方が良いのではないか。現代の学生層は、映像などから情報を得ることが主流となっているため、机上での勉学で理解・習得をすることには本質的に限界がある。その点で、実技中心のカリキュラムになるという流れは、ニーズに合っている。 ・NESTAからの出向講師では、授業内容シラバス以上の学びの提供は位置づけ上難しい。授業内容の指導者という点以外にも、様々な視点で考え講師の配当(人選)はすべきである。 ・インストラクター理論と実践Ⅰ・インストラクター理論と実践Ⅱ、インストラクター理論と実践Ⅲ・インストラクター理論と実践Ⅳをそれぞれ同じ講師で運用するのは、講師が一貫して指導できるのは良い取り組みだと思う。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実践的な指導を施すにあたり、スポーツ業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。スポーツ業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 * 授業内容について(1年次に40時間、2年次に80時間、連携企業先で現場実習を実施し、スポーツ・健康業界に必要な現場での実践力を習得する) * 評価について(連携企業による項目別の評価をもとに最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする)			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ピラティス理論と実践Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための実践的な指導力を身につける。	株式会社CODE7
ピラティス理論と実践Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための実践的な指導力を身につける。	株式会社CODE7
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のスポーツ・健康業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。 ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修 ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修			

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等：株式会社インストラクションズ
代表 清水 忍

対象：教職員（100名）

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等: 日本ペップトーク普及協会 代表理事 岩崎 由純様

対象：教職員（100名）

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等：一般社団法人日本フィットネス産業協会 FIA

对象：担任(20名)

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等：Original Nutrition株式会社 代表取締役 廣瀬 直樹

対象：教職員（100名）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施すること」を基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・実際に卒業生や講師の先生方から現場の話を聞ける機械は貴重であり、学生にとってよい影響となるので、先生や卒業生とコミュニケーションが取れる環境があれば今後に活かせると思う。

⇒キャリア教育内で現場で活躍する卒業生からの講話などを盛り込んでいく予定

・卒業後も先生方に会う機会や学校と繋がりを有する機会があると、卒業生が活躍する業界へ在校生を紹介出来たり、好循環が生まれるのではないかと(卒業生の現場での活躍状況も把握できる)

⇒今年度は20周年同窓会もあるので、その機会を活用し今後の繋がりをしっかりと構築していきたい

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
古田 祐実	株式会社Strong Bonds	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	関連業界等関係者
坂本 紀典	元校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	教育に関し知見を有する者
天願 聖悟	ARC Personal Training Gym 代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日 (1年)	関連業界等関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/yokohama-sports/docs/kankeisya.pdf>

公表時期: 令和7年7月3日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。

2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。

3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、目指すべ
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/yokohama-sports/>

公表時期: 令和7年5月21日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツ&アクティビティ科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 技 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任		兼 任
1			○	インストラクター理論と実技Ⅰ	トレーニングの基本や様々な種目を実践形式で学び、自らトレーニングすることの楽しさと重要性を感じる	1 前	45	3	○			○			○	
2			○	インストラクター理論と実技Ⅱ	・現場で活躍するインストラクターになるためには人体の仕組みを学ぶことが必要であることを理解させる ・トレーニングと結びけながら、基本的な体の仕組みを理解する	1 前	45	3	○			○			○	
3			○	インストラクター理論と実技Ⅲ	・クライアントの評価とプログラミング、個人とグループの指導ができるようになる ・エクササイズボール種目を実践し、指導できるようになる	1 前	45	3	○			○			○	
4			○	インストラクター理論と実技Ⅳ	・評価方法や生体力学などを理解し、運動指導に結び付けられるような知識を身につける ・様々なクライアントに合わせたプログラミングの組み立てができる	1 後	45	3	○			○			○	
5	○			スタジオエクササイズⅠ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につける。	1 前	30	1				○	○		○	
6	○			スタジオエクササイズⅡ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につける。	1 後	30	1				○	○		○	
7		○		トレンエクササイズⅠ	運動指導の現場で実際に行われているプログラムを体験し、その効果や魅力を理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
8		○		トレンエクササイズⅡ	運動指導の現場で実際に行われているプログラムの指導を体験し、インストラクターという仕事の魅力を知る	1 後	30	2	○			○			○	
9		○		スポーツストレッチ実技Ⅰ	各ストレッチングに関する正しい知識と技能を習得し、スタティックストレッチングをリードアップする技能を習得する。ストレッチングを通して身体に触れることで身体に対しての理解を深める。	1 前	30	1				○	○		○	
10		○		スポーツストレッチ実技Ⅱ	スポーツトレーナーにとって、ストレッチングに関する正しい知識と技能は必要不可欠なものである。スポーツトレーナーに必要なストレッチングに関する正しい知識と技能を学習する。	1 後	30	1				○	○		○	
11		○		スポーツ栄養学ⅠA	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
12		○		スポーツ栄養学ⅠB	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1 後	30	2	○			○			○	
13	○			運動指導の予防と緊急処置ⅠA	運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその緊急処置の方法を学習する	1 前	30	2	○			○			○	
14	○			運動指導の予防と緊急処置ⅠB	運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその緊急処置の方法を学習する。	1 後	30	2	○			○			○	
15		○		運動指導の心理学	運動指導を行う上で運動と心の関係を理解し、対象者に適切なかわり方や指導者の役割や身に付けるべき能力、理論やモデル等について理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
16		○		未来デザインプログラムⅠ	社会人としてあるべき人格を高め、自身および他者へのリーダーシップを醸成する。	1 前	15	1	○			○		○		
17		○		未来デザインプログラムⅡ	社会人としてあるべき人格を高め、自身および他者へのリーダーシップを醸成する。	1 後	15	1	○			○		○		
18		○		キャリア教育Ⅰ	分野・業界を深く知り、自分を知り、なりたい自分を明確にする。また、就職活動に向けて準備をする。	1 前	15	1	○			○		○		
19		○		キャリア教育Ⅱ	分野・業界を深く知り、自分を知り、なりたい自分を明確にする。また、就職活動に向けて準備をする。	1 前	15	1	○			○		○		
20		○		コンディショニング実技ⅠA	健康教育に関わる者として、コアコンディショニングの概念および手法を用いたコンディショニング指導方法を習得する。	1 前	30	2	○			○			○	
21		○		総合演習Ⅰ	職業・仕事に関連した研究テーマをグループで主体的に考え、学生らしい柔軟な思考・発想力を活かして実践的に考察を深め、将来の職業・仕事のより良いあり方をデザインし、それらを提案・発表する。	1 前	30	2	○			○		○		
22		○		総合演習Ⅱ	職業・仕事に関連した研究テーマをグループで主体的に考え、学生らしい柔軟な思考・発想力を活かして実践的に考察を深め、将来の職業・仕事のより良いあり方をデザインし、それらを提案・発表する。	1 後	30	2	○			○		○		
23		○		ビジネスマナー	社会人になるうえで、就職活動や卒後のキャリアに向けて相応しい立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることができるようになる。また就職活動に向けた対策内容も学んでいく。	1 後	15	1	○			○			○	

24			○	コースセレクト編論	1年次後期コース選択するにあたり、各コースの講義と実技を実施する。	1 前	15	1		○		○							
25				○	サーベランスニング講習	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささええるスポーツ」の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として必要な資質・能力を高めることができる。	1 後	15	1		○		○						○
26				○	インターンシップ実習Ⅰ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。	1 後	45	1			○	○						○
27		○			トレーニング実践と指導のⅡⅠ	ベーシック復習および、より高度なフリーウエイトトレーニングを学ぶ	2 前	30	1			○	○						○
28		○			トレーニング実践と指導のⅡⅡ	ベーシック復習および、より高度なフリーウエイトトレーニングを学ぶ	2 後	30	1				○	○					○
29				○	トレンドエクササイズⅢ	1年次の応用。各エクササイズが指導できるようになる。	2 前	30	2			○			○				○
30				○	トレンドエクササイズⅣ	2年次の応用。各エクササイズが指導できるようになる。	2 後	30	2			○			○				○
31				○	モチベーションマネジメント	スポーツビジネス業界で求められるモチベーションマネジメントを習得する。「モチベーション・インストラクター資格」取得を目指し、他者のモチベーション維持向上するための理論を習得する。	2 前	15	1				○						○
32				○	スポーツマネジメント	フィットネスクラブに従事する者として、フィットネス産業の商品・サービスなどの特徴及び重要性などを正しく理解し、得意性を描き、そこに適切にアプローチできる能力を身に付ける。	2 前	30	2			○			○				○
33		○			ピラティス理論と実践Ⅰ	PHI Pilatesベーシックエクササイズ・インストラクターについて学ぶ	2 前	30	2			○			○				○
34		○			ピラティス理論と実践Ⅱ	PHI Pilatesベーシックエクササイズ・インストラクターについて学ぶ	2 後	30	2			○			○				○
35				○	キャリア教育Ⅲ	分野・業界を深く知り、自分を知り、なりたい自分を明確にする。また、就職活動に向けて準備をする。	2 前	15	1		○				○				○
36				○	キャリア教育Ⅳ	分野・業界を深く知り、自分を知り、なりたい自分を明確にする。また、就職活動に向けて準備をする。	2 後	15	1		○					○			○
37				○	総合演習Ⅲ	運動指導施設では指導以外の様々な業務でも活躍が求められます。この授業では自分たちで運動施設を運営する実習などを通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営について学習していく。	2 前	30	2			○			○				○
38				○	総合演習Ⅳ	運動指導施設では指導以外の様々な業務でも活躍が求められます。この授業では自分たちで運動施設を運営する実習などを通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営について学習していく。	2 後	30	2			○			○				○
39					○	運動指導特論	運動生理学、機能解剖学とバイオメカニクス、栄養学、心理學、体力測定健康申請科目を実施。学習目標の内容を内容と網羅すること	2 前	60	4			○						○
40				○	健康づくり運動の実践	健康産業の必要性が高まる中で、生涯を通じての健康づくりを啓発・推進するための知識を身に付ける。	2 前	30	2		○								○
41				○	運動指導実践	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる実技試験の対策を行い専門的知識を高めると共に、運動指導の方法及び指導者としてのスキルを身に付ける。	2 前	30	1				○	○					○
42				○	トレーニング特論	JATI一般科目と練習問題を解く内容	2 前	30	2		○								○
43				○	インターンシップ実習Ⅱ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。授業で得たものを活かしつつ「対人基礎力」、「対自己基礎力」、「対課題基礎力」「専門知識・技術」の4項目の力を伸ばしているよう活動に取り組む。	2 後	90	3			○			○				○
44				○	グループエクササイズ実習Ⅰ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身に付け、音楽に合わせて行うグループエクササイズ動作の見本を示す表演能力と動き方を教える指導能力の基礎を学習する。	1 後	30	1			○			○				○
45				○	グループエクササイズ指導実習Ⅱ	安全でかつ効果的グループエクササイズの指導法を学び、実践していく。	1 後	30	1				○			○			○
46				○	チャイルドスポーツ実践	子ども達の見本となる運動実技（マツト運動、跳び箱、鉄棒等）を体験し、技術を習得する。	1 後	30	1				○			○			○
47				○	チャイルドスポーツ指導実習Ⅰ	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身に付ける	1 後	30	1				○	○					○
48				○	イベントプランニングⅠ	イベントをスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施方法を学習する。また、イベントの多面性と多様性の理解からイベントの企画・立案・実施などのポイントを押さえたイベントを企画できる力を身に付ける。	1 後	30	2		○				○				○
49				○	リチームマーケティングⅠ	日本のスポーツの基盤は地域スポーツクラブである。その中のサンカークラブ運営に欠かせないマーケティングについて、クラブ設立から運営に関わる知識を学ぶ。	1 後	30	2		○								○

50			○ サッカー実践Ⅰ	サッカーコーチを目指す上で基礎技術の習得は必要不可欠であるため、基礎技術の確認・習得を目指すし、また基礎技術を習得していく段階で、指導する際のポイントを確認する。	1 前	45	1			○		○		○		
51			○ サッカー実践Ⅱ	サッカーコーチを目指す上で基礎技術の習得は必要不可欠である。この授業では基礎技術の確認・習得を目指す。また、基礎技術を習得していく段階で、指導する際のポイントを確認する。	1 後	45	1			○		○		○		
52			○ テニス実践Ⅰ	テニスコーチになる為に、各ショットを構成する局面構造を理解し、戦術を知る。また実技を行いながら、バイオメカニクス・生理学・栄養学の側面からもテニス技術を理解し習得をする。	1 前	45	1			○		○		○		
53			○ テニス実践Ⅱ	テニスコーチになる為に、各ショットを構成する局面構造を理解し、戦術を知る。また実技を行いながら、バイオメカニクス・生理学・栄養学の側面からもテニス技術を理解し習得をする。	1 後	45	1			○		○		○		
54			○ ダンスゼミ	ダンスを仕事にする上での基礎知識を、実技／座学を交えて身につける。 授業の後半は、振付をメインとしたダンスレッスンを行い、振付を通してダンスの楽しさを学ぶ。	1 前	30	1			○		○		○		
55			○ ダンス実践Ⅰ	リズムやステップの習得を通して表現力を磨く。音楽に対する感覚を養い、自身の動きに自信を持てるようにすることを目指します。	1 後	45	1			○		○		○		
56			○ ダンス指導実践Ⅰ	ダンス指導の基礎知識を身につける。ダンス指導者としての振付制作の実践。	1 後	45	1			○		○		○		
57			○ トレンドダンスⅠ	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	1 後	30	1			○		○		○		
58			○ ダイビング用具の知識	様々な器材の素材・機能・構造の違いを学び、お客様に合った適切な器材を説明・紹介出来る知識を学習する。	1 前	30	2	○			○			○		
59			○ ダイビング物理・生理	スクーバを使って水中に潜ると人体がどのように機能するか、水中環境がもたらす変化に人体がどのように反応するかを学習する。	1 前	30	2	○			○			○		
60			○ 潜水土	ダイビング業界では必須である潜水土国家試験にむけて潜水の物理学、潜水の知識、関連法規、高気圧作業安全衛生規則について学習する。	1 後	30	2	○			○			○		
61			○ ダイビング理論Ⅰ	ダイビング基礎としてOWDに関する知識を習得する事、レクリエーションダイビングとしてのAOWを学ぶ事、レスキューダイバーとして必要な知識を身につける学習をする。	1 前	30	2	○			○			○		
62			○ ダイビング理論Ⅱ	ダイブマスターに向けてダイビング理論知識を学習する。	1 後	30	2	○			○			○		
63			○ スクーバダイビング実習Ⅰ	ダイビングインストラクターになるに必要なダイビング技術を学習する。	1 通	##	4			○		○				
64			○ グループエクササイズ実践Ⅰ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につけ、音楽に合わせて行うグループエクササイズ動作の見本を示す実演能力と動き方を教える指導能力の基礎を学習する。	2 前	45	1			○	○			○		
65			○ グループエクササイズ実践Ⅱ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につけ、音楽に合わせて行うグループエクササイズ動作の見本を示す実演能力と動き方を教える指導能力の基礎を学習する。	2 後	45	1			○	○			○		
66			○ グループエクササイズ指導実践Ⅰ	安全でかつ効果的なグループエクササイズの指導法を学び、実践していく。	2 前	45	1			○	○			○		
67			○ グループエクササイズ指導実践Ⅱ	様々なレッスンのプログラミングやリードについて理解する。レッスン指導することができる。	2 後	45	1			○	○			○		
68			○ 水中運動実践	肩、腰、膝などに痛みのある方に水の特性を利用した水中エクササイズを理解し、水中エクササイズを通して日常動作をより良い状態にするための理論と指導法を学ぶ。	2 前	30	1			○	○			○		
69			○ グループエクササイズ実践Ⅲ	安全でかつ効果的なグループエクササイズの指導法を学び、実践していく。	2 前	30	2	○			○			○		
70			○ グループエクササイズ実践Ⅳ	安全でかつ効果的なグループエクササイズの指導法を学び、実践していく。	2 後	15	1	○			○			○		
71			○ チャイルドスポート指導実践Ⅰ	幼児期の発育発達を理解し、段階的な運動指導、子どもへの関わり方、また状況に応じた対応の仕方などを学習する。自分の理想とする体操スクールを企画し、指導案を作成する。	2 前	30	1			○	○			○		
72			○ チャイルドスポート指導実践Ⅱ	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。	2 後	30	1			○	○			○		
73			○ キッズダンス実践Ⅰ	キッズの身体的特徴と運動療の機能向上を理解したうえで正しいダンス指導方法を学習していきます。	2 前	45	1			○	○			○		
74			○ キッズダンス実践Ⅱ	キッズの身体的特徴と運動療の機能向上を理解したうえで正しいダンス指導方法を学習していきます。	2 後	45	1			○	○			○		
75			○ キンバレンスエーション指導実践Ⅰ	幼児体育指導者として必要な運動技能及び補助法を身につける。運動種目の動きを小さく分解し、段階指導を身につける。	2 前	45	1			○	○			○		

76			○	キッズ・ジュニア・ユース・シニア指導実践Ⅰ	幼児体育指導者として必要な運動技能及び補助法を身につける。運動種目の動きを小さく分解し、段階指導を身につける。	2 後	45	1			○	○			○	
77			○	発育発達論	「子どもがわかる好きになる」をテーマに展開し、1人ひとりの子どもに向ける「やさしい目」を養う。	2 前	15	1	○			○			○	
78			○	イベントプランニングⅡ	イベントをスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施方法を学習する。また、イベントの多面性と多様性の理解からイベントの企画・立案・実施などのポイントを押さえたイベントを企画できる力を身に付ける。	2 前	30	2	○			○			○	
79			○	リサーチマーケティングⅡ	日本のスポーツの基盤は地域スポーツクラブである。その中のサッカークラブ運営に欠かせないマーケティングについて、クラブ設立から運営に関わる知識を学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
80			○	スポーツプロモーションⅠ	スポーツに関わる消費者・生活者のニーズや欲求を満たすために企画された活動であるスポーツマーケティングについて、体験型製品であるスポーツイベントの実例を通して学習していく。	2 前	30	2	○			○			○	
81			○	スポーツプロモーションⅡ	スポーツに関わる消費者・生活者のニーズや欲求を満たすために企画された活動であるスポーツマーケティングについて、体験型製品であるスポーツイベントの実例を通して学習していく。	2 後	30	2	○			○			○	
82			○	商品開発論Ⅰ	スポーツショップ等で取り扱われるスポーツ用品が店頭に出るまでにメーカー等でどのような過程を経て商品の企画開発をおこなっているかを学習する	2 前	30	2	○			○			○	
83			○	商品開発論Ⅱ	スポーツショップ等で取り扱われるスポーツ用品が店頭に出るまでにメーカー等でどのような過程を経て商品の企画開発をおこなっているかを学習する	2 後	30	2	○			○			○	
84			○	アプリケーション演習Ⅰ	PCやスマホにおける画像、映像の編集、加工など実践的な活用スキルを学ぶ	2 前	30	2	○			○			○	
85			○	アプリケーション演習Ⅱ	PCやスマホにおける画像、映像の編集、加工など実践的な活用スキルを学ぶ	2 後	30	2	○			○			○	
86			○	モテベーション・インストラクター	スポーツビジネス業界で求められるモチベーションマネジメントを習得する。	2 前	30	2	○			○			○	
87			○	サッカー実践Ⅲ	サッカーの基礎技術を習得する。 サッカー指導のポイントを確認する。	2 前	45	1			○		○		○	
88			○	サッカー実践Ⅳ	サッカーの基礎技術を習得する。 サッカー指導のポイントを確認する。	2 後	45	1			○		○		○	
89			○	サッカー指導実践Ⅰ	U-12年代の子どもたちが、試合の結果だけでなく、プレーを「楽しむ」ために必要な指導法を学び実践する。	2 前	45	1			○		○		○	
90			○	サッカー指導実践Ⅱ	JFAの理論のもと、U-12年代の子どもたちがゴールを奪う楽しさやゴールを守る楽しさが伝えられるよう、目的を持ったサッカー指導技術を身につける。	2 後	45	1			○		○		○	
91			○	スクールマネジメント	日本のスポーツの基盤は地域スポーツクラブである。その中のサッカークラブ運営に欠かせないマネジメントについて、クラブ設立から運営に関わる知識を学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
92			○	フットサルトレーニング指導実践Ⅰ	多様な多様なフィジカルトレーニングの考え方やトレーニング内容を理解し、選手にあったトレーニングメニューを作成していく。	2 前	30	1			○	○			○	
93			○	フットサルトレーニング指導実践Ⅱ	多様な多様なフィジカルトレーニングの考え方やトレーニング内容を理解し、選手にあったトレーニングメニューを作成していく。	2 後	30	1			○	○			○	
94			○	テニス実践Ⅲ	テニスコーチになる為に、各ショットを構成する局面構造を理解し、戦術を知る。 実技を行いながら、バイオメカニクス・生理学・栄養学の側面からもテニス技術を理解し習得する。	2 前	45	1			○		○		○	
95			○	テニス実践Ⅳ	テニスコーチになる為に、各ショットを構成する局面構造を理解し、戦術を知る。 実技を行いながら、バイオメカニクス・生理学・栄養学の側面からもテニス技術を理解し習得する。	2 後	45	1			○		○		○	
96			○	テニス指導実践Ⅰ	テニスコーチになる為に、テニススクールに就職した際に直面する状況を踏まえ、その対策をするPLAY・STAYの理解と実践をしていく。	2 前	45	1			○		○		○	
97			○	テニス指導実践Ⅱ	テニスコーチになる為に、テニススクールに就職した際に直面する状況を踏まえ、その対策をするPLAY・STAYの理解と実践をしていく。	2 後	45	1			○		○		○	
98			○	ダンス実践Ⅱ	リズムやステップの習得を通して表現力を磨く。 音楽に対する感覚を養い、自身の動きに自信を持てるようにすることを目指します。	2 前	45	1			○		○		○	
99			○	ダンス実践Ⅲ	これまでのリズムやステップ総復習を行いながら、実技・実践を行う。	2 後	45	1			○		○		○	
100			○	ダンス指導実践Ⅱ	ダンス指導の応用力を身につける。ダンス指導者としての振付制作スキルを身につけるために、ダンス作品を理論的に考え、作品の理解を深め実際に自らが考える力をつける。	2 前	45	1			○		○		○	
101			○	ダンス指導実践Ⅲ	ダンス指導において身につけた総合的な技術を実践する。	2 後	45	1			○		○		○	

102			○	トレンドダンスⅡ	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	2 前	45	3		○		○	○	
103			○	トレンドダンスⅢ	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	2 後	45	3		○		○	○	
104			○	ダイビング特講Ⅰ	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを行う。	2 前	30	2	○			○	○	
105			○	ダイビング特講Ⅱ	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを行う。	2 後	30	2	○			○	○	
106			○	インストラクター特講Ⅰ	PADIダイブマスター PADIオープンウォータースクーバイ インストラクターでのデモンストレーションスキルを学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○	
107			○	インストラクター特講Ⅱ	PADIダイブマスター PADIオープンウォータースクーバイ インストラクターでのデモンストレーションスキルを学ぶ。	2 後	30	2	○			○	○	
108			○	水中生物とエコロジーⅠ	水中世界の生態系について学び、身近な環境問題を考える とともに研究発表を行う。	2 前	30	2	○			○	○	
109			○	水中生物とエコロジーⅡ	水中世界の生態系について学び、身近な環境問題を考える とともに研究発表を行う。	2 後	30	2	○			○	○	
110			○	ダイビング施設の運営と管理Ⅰ	ダイビング施設の運営に関するノウハウを学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○	
111			○	ダイビング施設の運営と管理Ⅱ	ダイビング施設の運営に関するノウハウを学ぶ。	2 後	30	2	○			○	○	
112			○	リスクマネジメントⅠ	ダイビングに関するリスクマネジメントとは何か。法律シ ステムについて学ぶ。	2 前	15	1	○			○	○	
113			○	リスクマネジメントⅡ	ダイビングに関するリスクマネジメントとは何か。法律シ ステムについて学ぶ。	2 後	15	1	○			○	○	
114			○	潜水医学	ダイビング時に発生する潜水障害のついて学ぶ。 有効な処置を実施できるように様々な障害について学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○	
115			○	気象・海洋学	快適なダイビングを実施するために気象・海洋学について 学ぶ。 ダイビングに適した海況について学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○	
116			○	ダイビング特演	日本・世界のダイビングポイント、水中環境を学ぶ。 ドライスーツの使用方法を学ぶ。	2 前	30	2	○			○	○	
117			○	スケーバダイビング実習Ⅱ	プロコースの基礎としてDMに習得する知識・技術を習得す る事。PADIオープンウォータースクーバイインストラクター でのデモンストレーションスキル習得する。	2 通	##	5			○	○	○	
118			○	スケーバダイビング実習Ⅲ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養う とともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像 やスキル、社会を学ぶ。授業で得たものを活かしつつ「対 人基礎力」、「対自己基礎力」、「対課題基礎力」「専門 知識・技術」の4項目の力を伸ばしていけるよう活動に取 り組む。	2 通	##	6			○	○	○	
合計						118	科目		195 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認めら れた者に、卒業の認定を行う。 卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。 なお自由選択科目のうち1～4、7～12、15～17は必修科目、18～ 26、29～32、35～118は選択必修科目とする。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。